

PVT（絵画語彙発達検査）についてです。

この検査は、3歳から10歳までを対象にしています。

この検査から語彙年齢がわかります。

理解していることば数がどれくらいあるか判断できます。

68のことばを子どもに問います。

子どもは、そのことばからイメージできる絵を指差します。

はじめは、その絵に描かれているものの名前を問います。

そして、そのものの属性や上位概念、部位の名前を問います。

問うことばは、日常の生活から離れていきます。

さらに絵本やテレビ、ビデオで見たり聞いたりしたろうことばを問いつづけていきます。

子どもの記憶や類推する力も関係していると思います。

4ページあたりから誤りが出てくる子どもの親御さんには、次のように伝えることができます。

「日常使うことばは理解できています。

しかし、たまにしか聞かないことば、耳で聞いたであろうことばは、定着しにくい の
かもしれません。」

「日常的にくり返し耳から入ってくることばは、定着できています。

たまにしか聞かないことばとそのものをつなげて記憶する力が弱い の
かもしれません。」

一例です。

子どもの年齢によっても親御さんに伝える内容は変わります。

また、ここから指導が始まります。

PVTの検査の続きです。

「学習するには三つの力が必要です。

聞いて学ぶ力

見て学ぶ力

記憶する

この三つが必要なんです。」
と説明するときもあります。

ページの正答が三つ以下になり、次のページのはじめから三つ続けて誤答か無答のときに検査を中止します。

換算して、生活年齢と語彙年齢を比べます。

語彙年齢のほうが低い場合と高い場合、ほぼ同じ場合の三つに分かれます。

語彙年齢が低い場合には、聞いて学ぶ力が弱いのか、見て学ぶ力でカバーできるか考えます。

高い場合には、聞いて学ぶ力が強いのか、見て学ぶ力はどうか観察していきます。

絵カードを使い、検査をしながら観察していきます。

PVT の検査の続きです。

子どもは、ことば数が増えるにつれて、正しい発音を獲得していきます。

そして、器質的な問題がない限り、小学校入学前後にはすべての発音を獲得します。

発音の誤りがあり、PVT の検査で語彙年齢が 6 歳を超えているときがあります。

このような場合、親御さんに次のように話します。

「誤って発音の仕方を学習したのかもしれませんが。」

または、話すための器官の動きが未熟なのかもしれません。」

と。

PVT の検査の続きです。

「身近なことば、具体的なことばは習得しているようです。」

しかし、ことばや絵から類推する力が弱いのかもしれません。

会話は目に見えていないことを伝え合います。

そのときに類推する力が弱いと、聞いてもイメージできない。

理解できないのかもしれません。」

と伝えるときがあります。(子どもの生活年齢にもよりますが・・・)

投票と聞いて演説の絵を指さします。

このページには、投票している場面の絵はありません。

投票と聞いて、「選挙」「演説」「投票」とイメージできれば、演説の絵を指差すことができそうです。

演説の絵を見て、「選挙」「投票」がイメージできれば、演説の絵を指さすことができます。

PVT の検査の続きです。

「投票」と聞いて、「選挙」「演説」とイメージできるのは聞いて理解する力が強いと言えます。

「演説」の絵を見て、「選挙」「投票」とイメージできるのは見て理解する力が強いと言えます。

実際に PVT の検査をしていて、ここまでは確かめられませんが・・・。

これを確かめられるのが ITPA だと思います。